洗屈までに至らなかった阪神橋梁

洪水の度に土砂と漂着物で埋まるが今回は何故か無かった。

5 月末に埋め戻された 43 号線橋梁下高水敷

甲武橋水位より高い新幹線橋梁の漂着物痕跡

新幹線橋梁右岸側（中央部の大きな砂州で流れは左右に集中）

動物愛護センター付近の、表土が剥ぎ取られた低水護岸

甲武橋水位は長雨で 60 時間も水防団待機水位（2.2m）前後で推移した。

洪水時の仁川潜水橋下流の状況

砂漠状態になった洪水後の潜水橋下流側

百間樋に流れ着いた大きな石

森興橋から瀬付け替え工事区間方向を望む

今年河床掘削を終えたばかりの河床に掘削前より高く砂礫堆積

遊水地工事現場、今回の洪水では越流は無かった。

台風 7 号は幸いにして逸れたが、台風に続いてやってきたのが同じ場所で次々と積乱雲を発生する「線状降水帯」で各地で大きな被害をもたらした。特に岡山・広島で大規模な洪水や土砂崩れが発生した。武庫川流でも近年にない大雨が約 4 日間も続いた。今回の雨の特徴は山形になる降雨パターンと違い、比較的強い雨が長時間降り続く台形パターンで、甲武橋水位も水防団待機水位が 60 時間も続いた。千苅ダムは情報公開されていないので把握できなかったが、青野ダムを見る限り貯水余裕ありながら流入相当量を放流した時間帯もあったが、ピーク時でも放流量を引き上げる異常洪水時防災操作はなく道場水位も安定していた。高水位で長時間で推移したが、43 号線橋梁下の埋め戻し カ所表土洗われた。動物愛護センター付近の低水護岸表土剥れ程度で大きな被害は発生しなかった。

仁川から大量土砂（本川は砂礫、仁川は砂）が流れ込み合流点を埋め尽くし全く河原砂漠状態になった。百間樋付近も取水路が砂で埋まった他は被害はなかった。意外だったのは漂着ゴミは全体的に見られが左岸側に多かった。甲子園浜から大量漂着の情報が届き、猪名川も住吉川も漂着ゴミ量は少なく、全部海へ流されてしまったのかも知れない。